

調査地①～③について意見

<調査地①について>

- ・竹林は都市部はもとより山間地においても、管理がされていない放置竹林が見られます。竹林の根は横に広がり、深さは30cmほどしかなく、雨が降ると斜面が滑り落ちる危険があると言われています。
- また、竹の繁殖力が高いため、杉や檜・広葉樹の植生エリアを侵食された、適切に管理されない放置竹林増えています。
- 各都道府県では、放置竹林の対策に取り組んでいます。竹林を伐採し、落葉樹・針葉樹などを織り交ぜた植栽に取り組んでいく必要があると考えます。

<調査地②>

- ・各市町村では森林整備計画が策定されており、豊根村を例に挙げると杉・檜の植栽は1haの密仕立て3,000本、中仕立て2,500本、疎仕立て1,800本となっています。
- それぞれの標準間伐は、密仕立ては、16年目、24年目、29年目の3回
中仕立て・疎仕立ては16年目、24年目の2回
- 下刈りについては、植栽後5年間おこなうようになっています。
- 現地では、1,500本の植栽であるので、計画的な管理を進めていく必要があると思います。

<調査③>

- ・本日のような大雪による倒木や今後予想されるゲリラ豪雨など防災・減災の対策は必要であると感じている。道路沿いの森林整備については、道路誘導などの費用がかかるが、インフラ対策・防災対策において必要な事業であるので、計画的に推進していったほしいと思います。

